

**医学教育分野別評価**  
**山梨大学医学部医学科**  
**年次報告書**  
**2020年度**

**評価受審年度 2018(平成30)年**



**医学教育分野別評価 山梨大学医学部医学科 年次報告書  
2020年度**

評価受審年度 2018（平成30）年

今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.1 使命</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生、教員、医療提供機関および医学研究機関の関係者へ使命をさらに周知徹底すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>医学部の使命については、大学のホームページに掲載され公開されているが、学生、教員、医療機関等への周知は十分とは言えない。まず学生に周知徹底するため、2020年度の新入生ガイダンスにおいて医学部の使命、社会的責務などに関する説明を行う予定とし、更にワークショップを開催することとした【資料1-1-B1】。しかし新型コロナウイルス感染症のため、説明は実施したがワークショップはできなかった。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>上記の取り組みを継続するとともに、医学部運営会議において教員への使命の周知方法を検討する。また、医学部ステークホルダー・ミーティングを開催し、学外の医療機関や関係者などに現在の使命を周知し、問題点があれば使命の改良を検討する【資料1-1-B2】。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1-1-B1 2020年度新入生ガイダンス次第（案） 資料1-1-B2 第235回医学部教授会議事要録（その他：医学部ステークホルダー・ミーティング開催）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学修成果を明確にしてシラバス等に明示すべきである。</li> <li>・ 学修成果を学生、教員、職員、その他の教育の関係者に確実に周知すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>2019年度より基礎医学系・臨床基礎医学系・社会医学系科目のシラバスにおいて、ディプロマポリシーが明記されているか点検を行った【資料1-3-B1】。その結果、該当項目を明示している科目は少数であったため、2020年度の電子シラバス作成において、到達目標の欄にディプロマポリシーに含まれるキーワードを記載するように改めた【資料1-3-B2】。しかし、2020年度のシラバスにおいては、まだ十分な改善は見られていない。</p> <p>ディプロマポリシーは、山梨大学のホームページに掲載していたが、2019年7月より、医学部のホームページにもディプロマポリシーを掲載するよう改めた【資料1-3-B3】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>ディプロマポリシーの周知を図るため、シラバスへの記載を徹底する。また、医学教育カリキュラム評価等実施委員会が主体となり、「ディプロマポリシーを知っているか」（学生対象）、「講義内容の選定にあたりディプロマポリシーを参照しているか」（教員対象）という設問でアンケートを行う予定である【資料1-3-B4、1-3-B5】。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料1-3-B1 シラバスへのディプロマポリシー記載状況（2019年度）</p> <p>資料1-3-B2 令和2年度電子シラバスの作成依頼</p> <p>資料1-3-B3 学位授与方針（医学部ホームページ）</p> <p>資料1-3-B4 2019年度第5回医学教育カリキュラム評価等実施委員会議事要録（審議事項5）</p> <p>資料1-3-B5 医学教育分野別評価改善項目に関わる業務の分担について（1. 使命と学修成果①）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を関連づけることが望まれる。	
現在の状況	
<p>医学科では診療参加型実習において各診療科が評価を行い、卒業前に Post-CC OSCE を行うことで学修成果を評価している。附属病院では卒後臨床研修プログラムの評価に沿って各科の指導医が評価を行っている。臨床実習センター運営委員会が中心となり、各診療科の新しい評価表を作成するにあたり、臨床研修の評価項目を参照した。そのため、両者の評価項目には共通性がみられるが、まだ十分に関連付けられているとは言えない。</p>	
今後の計画	
<p>臨床研修センターではオンライン臨床教育評価システム（EPOC-2）を導入する予定であり、その評価項目を診療参加型実習の評価にも反映させるよう、臨床実習センター及び臨床研修センターにおいて継続的に検討する予定である【資料 1-3-Q1、1-3-Q2】。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料1-3-Q1 第46回臨床教育センター運営委員会議事要旨（議題3） 資料1-3-Q2 EPOC-2説明書</p>	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
<p><b>基本的水準 判定：部分的適合</b></p>	
<p><b>改善のための助言</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使命と学修成果を改訂する際には、教員、職員、学生を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。</li> </ul>	
<p><b>現在の状況</b></p>	
<p>使命と学修成果を改定する場合には、現在の状況について十分に討議する場が必要であることから、医学部独自のステークホルダー・ミーティング開催の検討を開始した【資料1-1-B2】。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p>	
<p>医学部ステークホルダー・ミーティングや毎年実施している医学部学生会との懇談会などにおいて、使命や3つのポリシーの改定を行う方法について意見交換する。</p>	
<p><b>現在の状況を示す根拠資料</b></p>	
<p>資料1-1-B2 第235回医学部教授会議事要録（その他：医学部ステークホルダー・ミーティング開催）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標および卒業時学修成果の策定には、他の医療職、地域医療の代表者など、より広い範囲の教育関係者の参加が望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
山梨県地域医療対策協議会、医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会など、本学の卒業生の状況について意見交換する場があるが、学修成果の策定に繋がる議論は行われていない【資料 1-4-Q1、1-4-Q2】。	
今後の計画	
上記の場において、本学の目標や卒業時の学修成果についても討議する。また、医学部ステークホルダー・ミーティングなどにおいて、より広い範囲の教育関係者からの意見を使命や学修成果の改定に反映できるよう検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1-4-Q1 山梨県地域医療対策協議会資料、山梨県地域医療支援センター内規 資料1-4-Q2 山梨大学医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会規程	

改善した項目・今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
<p><b>基本的水準 判定：適合</b></p>	
<p><b>改善のための助言</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 年度入学以降の新カリキュラムを着実に遂行すべきである。</li> <li>・ 一部の教科で実施されている反転授業等を拡充すべきである。</li> </ul>	
<p><b>改善状況</b></p>	
<p>2016 年度入学生が 4 年次に達したため、新カリキュラムに沿って 2019 年 11 月に Pre-CC OSCE、CBT 試験を実施し、2020 年 1 月より前半の臨床実習（Basic Clinical Clerkship、以下 BCC）を開始した。これによって、72 週間の実習期間を確保する予定である【資料 2-1-B1】。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p>	
<p>新型コロナウイルス感染症により、臨床実習が一時中断しているため、補習等を検討する。2020 年度は計画通り、5 年次生以下に新カリキュラムを適用するが、後半の臨床実習（Advanced Clinical Clerkship、以下 ACC）の開始は同感染症のために遅れる可能性がある。1 年次から 4 年次の講義に関しては、遠隔講義等で実施する。</p> <p>反転授業に関しては、2020 年度に医学部キャンパス教育 FD 委員会で反転授業等に関する教育 FD 研修会の実施を検討する。</p>	
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p>	
<p>資料2-1-B1 2019年度4年次生授業日程表</p>	



## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学生に対して医学研究の手法を確実に教育すべきである。</li> <li>・ 臨床現場における EBM の活用を推進すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>新カリキュラムの ACC において、基礎系講座での研究の機会を与えること、2021 年度入学生から適用予定の新々カリキュラムにおいて、バイオインフォマティクス等の研究手法を教育できるよう検討を始めた【資料 2-2-B1～B3】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>1 年次の教養総合講義におけるリエゾンアカデミー研究医養成プログラムの説明、3 年次の倫理学・プロフェッショナリズム及び 4 年次の社会医学・行動科学において医学研究の手法を継続的に教育する。4 年次から 6 年次の臨床実習において UpToDate の更なる活用を図る。</p> <p>医学研究手法の教育を強化した新々カリキュラムの早期導入を目指す。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料2-2-B1 2019年度第3回医学科医学カリキュラム委員会議事要録（審議事項 3、資料2）</p> <p>資料2-2-B2 2019年度第1回臨床実習検討委員会議事要録（審議事項1、資料1-1）</p> <p>資料2-2-B3 ACCクール区分表</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを基礎医学のカリキュラムに反映させることが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>情報・数理教育を強化するため、大学教育センターの教員により1年次前期に新しい科目として「データサイエンス入門」を開設することを決定した【資料2-3-Q1】。</p> <p>老年医学に関する特別講義を実施し、4年生、5年生及び本学教員が聴講した【資料2-3-Q2】。</p> <p>新々カリキュラムにおいて、将来の社会や医療システムに関連した内容を盛り込むよう、医学科医学カリキュラム委員会で検討を開始した【資料2-2-B1】。</p>	
今後の計画	
<p>新カリキュラムにおいて、3年次のテュートリアルコース4においてがんゲノム、老年医学等の教育の強化を図る【資料2-3-Q3】。</p> <p>新々カリキュラムにおいて、バイオインフォマティクス教育を開始し、高学年における医学統計教育の見直しを行う【資料2-3-Q4】。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料2-3-Q1 2020年度医学科授業科目履修規程（第2条2）、シラバス（データサイエンス入門）</p> <p>資料2-3-Q2 老年医学講義の案内</p> <p>資料2-2-B1 2019年度第3回医学科医学カリキュラム委員会議事要録（審議事項3、資料2）</p> <p>資料2-3-Q3 テュートリアル講義アンケート（がんゲノム）</p> <p>資料2-3-Q4 「バイオインフォマティクス」アンケート</p>	

改善した項目・今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新カリキュラムで計画されている体系的な行動科学教育を着実に実践すべきである。</li> </ul>	
<p>改善状況</p>	
<p>新カリキュラムで計画した体系的な行動科学教育を行った。講義にあたっては、毎回 40 分の講義、10 分の小テスト、それに基づく、Think-Pair-Share と発表を行った【資料 2-4-B1、2-4-B2】。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>2021 年度からは脳科学領域および心理学領域については学内の専門家による講義を導入し、充実を図る。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料2-4-B1 2019シラバス（行動科学） 資料2-4-B2 2019行動科学講義計画</p>	

改善した項目・今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを行動科学等の新カリキュラムに反映させることが望まれる。</li> </ul>	
改善状況	
<p>行動科学は新カリキュラムで 15 コマの講義時間で体系的に実施した。一方で、他の科目との連携は社会環境医学での予防行動に関する項目に限られていた【資料 2-4-B1、2-4-B2】。</p>	
今後の計画	
<p>社会環境医学のみならず、脳神経科学系の講義および精神科学との水平連携を計画する。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料2-4-B1 2019シラバス（行動科学） 資料2-4-B2 2019行動科学講義計画</p>	

改善した項目・今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
<p><b>基本的水準 判定：部分的適合</b></p>	
<p><b>改善のための助言</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つべきである。</li> <li>・ 重要な診療科で学修する時間を十分に定めるべきである。</li> <li>・ 診療参加型臨床実習をさらに推進すべきである。</li> </ul>	
<p><b>改善状況</b></p>	
<p>1年次の早期臨床体験（ECE）と3年次の救急用自動車同乗実習を継続した。新カリキュラムに沿って、4年次1月から臨床実習を開始し、臨床現場で患者と接する機会を増やした【資料2-1-B1】。</p> <p>2020年度からのACCの計画において、内科（6週間）、外科、産婦人科、小児科、精神科、総合診療（各3週間）を必修とすることを決定した。さらに、これらの診療科を自由選択で回ることも可能で、重要な診療科における学習時間を十分確保している。</p> <p>新カリキュラムではACCにおいて48週間の実習期間が確保されており、診療参加型臨床実習を推進できるよう各診療科において実習内容を検討している【資料2-2-B3】。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p>	
<p>1年次から3年次に各診療科に配属して病院で体験実習を行う日を設ける予定である【資料2-5-B1】。</p> <p>新カリキュラムを着実に実施し、診療参加型臨床実習のアウトカムを評価した上で次年度以降の各診療科の実習内容を改良する予定である。</p>	
<p><b>改善状況を示す根拠資料</b></p>	
<p>資料2-1-B1 2019年度4年次生授業日程表（2020年1月～3月）</p> <p>資料2-2-B3 ACCクール区分表</p> <p>資料2-5-B1 2020年度早期病院実習検討資料（第2回医学科医学カリキュラム委員会議事要録（審議事項2）、第11回医学部教育委員会議事要録（審議事項5）、2020年度授業日程表）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくことが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>1年次の早期臨床体験実習（ECE）及び一般の方（患者さんを含む）が参加する講義（社会の中の医療・医学）、3年次の救急用自動車同乗実習及び一般の方（患者さんを含む）が参加する講義（倫理学・プロフェッショナリズム）を行っている【資料2-5-Q1～Q4】。加えて、1年次から3年次に各診療科に配属して病院で体験実習を行う日を設けることを決定した【資料2-5-B1】。臨床実習が4年次から開始となる新カリキュラムを進めている【資料2-1-B1】。</p>	
今後の計画	
<p>2020年度においては新型コロナウイルス感染症のため、学生が患者さんに接することが困難な状況にある。感染症の状況を踏まえ、柔軟に対応する予定である。</p> <p>1年次医学科生の必修科目である「社会の中の医療・医学」の内容を見直し、一般の方（患者さんを含む）と接する機会を増やす予定である【資料2-5-Q4】。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料2-5-Q1 平成31年度「早期臨床体験実習（ECE）」実施日程</p> <p>資料2-5-Q2 令和元年度「救急用自動車同乗実習」実施詳細</p> <p>資料2-5-Q3 2019年度「倫理学・プロフェッショナリズム」講義内容</p> <p>資料2-5-Q4 2019年度「社会の中の医療・医学」講義内容</p> <p>資料2-5-B1 2020年度早期病院実習検討資料（第2回医学科医学カリキュラム委員会議事要録（審議事項2）、第11回医学部教育委員会議事要録（審議事項5）、2020年度授業日程表）</p> <p>資料2-1-B1 2019年度4年次生授業日程表（2020年1月～3月）</p>	

## 改善した項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに推進することが望まれる。</li> <li>・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的（連続的）統合をさらに推進することが望まれる。</li> </ul>	
改善の状況	
<p>水平統合については、神経科学では既になされている。また、社会医学系の科目である社会環境医学、地域医療学、救急用自動車同乗実習、行動科学においてもコアカリキュラムの整理と分担を確認してシラバスを作成している【資料 2-6-Q1】。</p> <p>4 年次において、臓器別のテュートリアル教育で不十分となりやすい臨床推論の講義を追加した【資料 2-6-Q2】。</p> <p>垂直的（連続的）統合については、テュートリアル教育において実施している。特に各コースの授業組み立てをコースディレクターに一任して症例をもとに基礎から臨床、社会的課題まで一貫した学習ができるようにした。</p>	
今後の計画	
<p>総合診療や臨床推論の教育を更に進めるため、医学科医学カリキュラム委員会において検討を行う【資料 2-6-Q2】。</p> <p>テュートリアル教育の内容について垂直的統合の視点をさらに強化したコース組み立てとなるようテュートリアル委員会を中心に検討を行う。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料2-6-Q1 2020年度シラバス（社会環境医学・地域医療学（救急用自動車同乗実習含む）・行動科学）</p> <p>資料2-6-Q2 臨床推論の講義日程（2019年度4年次生）</p>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学科医学カリキュラム委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
医学科医学カリキュラム委員会に他学部の教員が参加している【資料 2-7-Q1】。	
今後の計画	
<p>委員の見直しを行い、2020 年度からは全学の大学教育センターから教育の専門家が参加することとした。</p> <p>医学科のカリキュラムを議論する場として、医学部独自のステークホルダー・ミーティングの開催を検討する【資料 1-1-B2】。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料2-7-Q1 2020年度医学科医学カリキュラム委員会名簿</p> <p>資料1-1-B2 第235回医学部教授会議事要録（その他：医学部ステークホルダー・ミーティング開催）</p>	



## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>山梨県内だけでなく、県外の病院等からも卒業生の情報を得て教育プログラムの改良に役立てることが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>2019年10月18日に開催した山梨県内および県外の病院の臨床研修管理委員が参加する医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において、本学の卒後臨床研修プログラムの実施状況について意見交換した【資料2-8-Q1】。</p> <p>同委員会において、アンケートの実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症のため実施できなかった【資料2-8-Q2】。</p>	
今後の計画	
<p>医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会及び山梨医科大学／山梨大学医学部同窓会等を通じて、アンケートを実施し、その結果を分析してカリキュラムに反映させることを検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-8-Q1	令和元年度第1回山梨大学医学部附属病院(医師)卒後臨床研修管理委員会議事要録
資料2-8-Q2	令和元年度第2回山梨大学医学部附属病院(医師)卒後臨床研修管理委員会開催通知、開催変更通知

## 改善した項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識だけでなく、技能および態度を確実に評価すべきである。</li> <li>・ 臨床実習の現場において知識、技能および態度を統合的に評価し、時機を得たフィードバックを実施すべきである。</li> <li>・ 評価方法や形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。</li> <li>・ 評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。</li> </ul>	
<b>改善状況</b>	
<p>新カリキュラムの臨床実習（BCC）に先立って、学生が意見交換するワークショップを開催し、臨床実習センターの教員がフィードバックを行った【資料 3-1-B1】。</p> <p>新カリキュラムの臨床実習（BCC）において、知識、技能及び態度を統合的に評価する試みとして新たな評価表を導入した【資料 3-1-B2】。この評価表を e-ポートフォリオ（Mahara）において運用し、教員と学生が双方向でやり取りすることでフィードバックを実施できるようにした【資料 3-1-B3】。</p> <p>2020 年度からのテュートリアル教育のグループ学習法を変更し、新たな評価方法についてシラバス等で周知した【資料 3-1-B4】。</p> <p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会の医学科教員、学生代表以外の委員の見直しを行い、全学の大学教育センターから委員を招聘して評価法を改良できる体制に改めた【資料 2-7-Q1】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>低学年においては、筆記試験による総括評価だけでなく、レポートや e-ポートフォリオ（Mahara）を活用した形成的評価をバランスよく組み合わせるよう検討していく。</p> <p>テュートリアルのグループ学習において、予習課題に対する個人テストの導入、教員から学生にフィードバックできるようグループ課題の発表会の実施を予定している【資料 3-1-B4】。</p> <p>臨床実習における新しい評価表を臨床実習後半（ACC）においても導入する予定である【資料 3-1-B5】。</p> <p>他大学の医学教育部門との交流を図り、評価法について助言を得られるシステムを構築する。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料3-1-B1 BCCガイダンス日程・ワークショップ資料</p> <p>資料3-1-B2 臨床実習評価表（BCC）（2020年度）</p> <p>資料3-1-B3 e-ポートフォリオ教員向け操作説明会開催案内</p> <p>資料3-1-B4 グループ学習のてびき・テュートリアル合否判定について</p> <p>資料2-7-Q1 2020年度医学教育カリキュラム評価等実施委員会名簿</p> <p>資料3-1-B5 臨床実習評価表（ACC）（2020年度）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。</li> <li>・ 外部評価者を含めて評価方法を検討することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>チュートリアル試験問題については識別指数等により妥当性の検証が行われているが【3-1-Q1】、基礎医学科目の試験については委員会レベルでの検討はされていない。</p>	
今後の計画	
<p>2020 年度に医学教育カリキュラム評価等実施委員会の下部に「学生の評価方法に関するWG」を設置し、新たに招聘した教育の専門家を含むメンバーにより評価方法の信頼性と妥当性を検証する体制を整える。</p> <p>医学部キャンパス教育FD委員会と連携し、教員を対象に評価法についてのトレーニングを行うことを計画する【資料1-3-B4、1-3-B5】。</p> <p>他大学の医学教育部門との交流を図り、評価法について助言を得られるシステムを構築する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料3-1-Q1 チュートリアル筆記試験問題（得点分布、正答率、識別指数）</p> <p>資料1-3-B4 2019年度第5回医学教育カリキュラム評価等実施委員会議事要録（審議事項5）</p> <p>資料1-3-B5 医学教育分野別評価改善項目に関わる業務の分担について（3. 学生の評価②③）</p>	

## 改善した項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学修成果の達成度を確実に測ることができる評価を導入すべきである。</li> <li>・ 学修を促す形成的評価に役立つように e-ポートフォリオの内容を検討し、運用すべきである。</li> </ul>	
<b>改善状況</b>	
<p>新カリキュラムの臨床実習開始にあたり、医学部教育委員会が設置した「臨床実習の手引き」編集 WG において評価の内容を検討し、ディプロマポリシーに準拠したものとした。</p> <p>臨床実習センター運営委員会において学生評価における e-ポートフォリオ「Mahara」の運用について意見交換した。「Mahara」の操作方法について説明会を実施し、各診療科に周知した上で BCC において運用を開始した【資料 3-1-B3、3-2-B1】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>ACC においても新しい評価表を作成し、運用する【資料 3-1-B5】。</p> <p>臨床実習センター運営委員会において、臨床実習評価表および e-ポートフォリオの問題点を審議していく。</p> <p>低学年次からの試験・評価のあり方を医学教育カリキュラム評価等実施委員会、医学部教育委員会等において継続的に検討し、低学年次においても e-ポートフォリオを活用していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症下での試験や評価法について検討する。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料3-1-B3 e-ポートフォリオ教員向け操作説明会開催案内</p> <p>資料3-2-B1 e-ポートフォリオの運用について</p> <p>資料3-1-B5 臨床実習評価表（ACC）（2020年度）</p>	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 試験の回数や方法を、医学科全体で協議し適切に定めることが望まれる。	
現在の状況	
<p>試験の回数や方法は各講座、各担当教員に任されている。チュートリアルに関しては、試験問題の正答率・識別指数等を分析して教員にフィードバックを行っている【資料 3-1-Q1】。</p> <p>チュートリアルにおける評価のあり方をチュートリアル委員会で検討し、2020 年度からグループ学習の評価法を変更することとした【資料 3-1-B4】。</p>	
今後の計画	
<p>新カリキュラムにおいて実施される総合医学試験の方法、運用について検討を進める。</p> <p>試験の回数や方法、シラバスとの整合性などについて調査を行い、医学部教育委員会を中心に適切な試験、評価法となるよう継続的に検討する。</p> <p>教員が試験や評価法を学ぶ機会として、教育 FD 研修会を実施することを検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料3-1-Q1 チュートリアル筆記試験問題（得点分布、正答率、識別指数）</p> <p>資料3-1-B4 グループ学習のてびき・チュートリアル合否判定について</p>	

## 改善した項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・ 地域枠の選抜については今後国の方針を注視すべきである。	
改善状況	
令和 2(2020)年度、令和 3(2021)年度の医学部医学科臨時定員増の継続が、令和元年 11 月 15 日付けで文部科学省に認可された。これにより、地域枠の入学定員 35 名の継続が決まった【資料 4-1-B1】。	
今後の計画	
今後も文部科学省・厚生労働省の方針を注視し、本学と山梨県とで地域枠の入学定員について検討し、入学者選抜方法検討委員会等を通じて、社会のニーズを踏まえた入学者選抜を実施していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料4-1-B1 医学部の収容定員の増加について	

## 改善した項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
・ スモールクラスなどの活用により学修上の支援をさらに充実すべきである。	
<b>改善状況</b>	
<p>スモールクラス担当教員が新生入生に対して7月までに面談を行い、学修において問題のある学生、支援が必要と思われる学生について、学務課を通じて情報共有することとした。この制度について教授会で周知した【資料4-3-B1】。</p> <p>医学部教育委員会のもとに学生面談チームを設けることを決定した【資料4-3-B2】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>新型コロナウイルス感染症のためにスモールクラス面談の実施が困難な状況にあるが、上記の取り組みを確実に実施し、その制度の評価を行っていく。</p> <p>留年を繰り返すなど成績不良の学生、健康や経済的問題などにより就学が困難な学生、他の学生や教職員とのトラブルを抱えている学生などに対しては、医学部教育委員会の学生面接チームなどが対応していく予定である。</p> <p>学生面談結果について教員間で情報共有するシステムの構築を検討する。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料4-3-B1 第226回医学部教授会議事要録（審議事項11）、資料7</p> <p>資料4-3-B2 2019年度第10回医学部教育委員会議事要録（審議事項15）、資料13</p>	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
<p><b>基本的水準 判定：部分的適合</b></p>	
<p><b>改善のための助言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使命の策定や医学部キャンパス学生委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。</li> </ul>	
<p><b>現在の状況</b></p> <p>医学部キャンパス学生委員会への学生の代表の参加について、令和元年10月3日開催の医学部キャンパス学生委員会において、改善を求められていることが報告され検討が開始された【資料4-4-B1】。しかし、同委員会では学生の懲戒処分についても扱うため、運用上の何らかの解決策が必要で実現には至っていない。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p> <p>本委員会では、学生の不祥事や懲罰について報告・議論する事が多く、学生代表が参加することが適切か否かについて継続的に検討する。学生代表が参加する拡大委員会の設置についても検討を行う。</p>	
<p><b>現在の状況を示す根拠資料</b></p> <p>資料4-4-B1 第100回医学部キャンパス学生委員会議事要録（3.その他(1)）</p>	



## 改善した項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の男女間のバランスを配慮すべきである。</li> </ul>	
<b>改善状況</b>	
<p>2020年1月時点で臨床系講座及び附属病院に配置する臨床助教で女性教員の比率が高くなり、全体でも12%から15%に改善した【資料5-1-B1】。</p> <p>教員を公募する際、公募要領に次の追加情報を公表することにより、女性研究者が応募しやすい環境となるよう改善を図っている【資料5-1-B2】。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 山梨大学では『女性研究者研究活動支援事業』を推進していること。</li> <li>② 学内に、男女共同参画推進室を設置し、女性研究者に対する全学的なサポート体制を整備していること。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<p>医学部運営会議などにおいて、教員の男女間のバランスが適切となるよう継続的に取り組む。</p> <p>女性教員が働きやすい環境を確保するため、男女共同参画推進室や保育園管理委員会が連携して、山梨大学女性活躍推進行動計画に基づき、ワークライフバランスの改善に取り組んでいく。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料5-1-B1 教員数</p> <p>資料5-1-B2 救急集中治療医学講座教授公募（ホームページ）</p>	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
<p><b>基本的水準 判定：部分的適合</b></p>	
<p><b>改善のための助言</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解した上で教育を担当すべきである。</li> <li>・ 教育技法や学生の評価に関わる教育FD研修会をさらに充実し、参加者を増やすべきである。</li> </ul>	
<p><b>現在の状況</b></p>	
<p>医学教育学講座を設置し、個々の教員の教育活動を指導、支援できるよう専任教員を配置した。</p> <p>臨床医学教育向上を目的とした教育FD研修会を実施した【資料5-2-B1】。</p> <p>医学部キャンパス教育FD委員会において、改善のための助言にしたがって、今後の進め方について検討を開始した【資料5-2-B2】。</p>	
<p><b>今後の計画</b></p>	
<p>教育技法や学生評価に関する教育FD研修会を実施する。</p> <p>教員の教育FD研修会参加の義務化について検討する。</p>	
<p><b>現在の状況を示す根拠資料</b></p>	
<p>資料5-2-B1 令和元年度第5回全学教育FD研修会開催案内（臨床医学教育向上への取り組み）</p> <p>資料5-2-B2 2019年度第3回医学部キャンパス教育FD委員会議事要録（審議事項3、4その他(2)）</p>	

## 改善した項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生保険未加入者への確実な加入を促す個別の対策を講じるべきである。</li> <li>・ 安全な学修環境を確保するために予防接種を着実に行うべきである。</li> </ul>	
<b>改善状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生保険 臨床実習開始前に有効な保険に加入していることを保険証券の写しを提出させて確認している【資料 6-1-B1】。 入学予定者に配布する「学生保険について」を改訂した。 新入生ガイダンスにおいて学生保険の必要性について説明を行い、入学時の学生保険への加入状況を確認して、未加入者には個別に指導することとした【資料 6-1-B2】。</li> <li>・ 予防接種 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎、結核について、入学時の健康診断時に抗体検査を実施し、抗体価が不十分な者に対しては原則として保健管理センターでワクチン接種を行い、再度抗体価を検査している。個人的に他院での接種を希望した場合には接種記録等を提出させている【資料 6-1-B3～B5】。 インフルエンザについては、臨床実習対象学年の全学生に対して大学及び後援会が費用を負担し、ワクチン接種を行っている【資料 6-1-B6、6-1-B7】。</li> </ul>	
<b>今後の計画</b>	
<p>1年次に早期臨床体験実習等が行われていることから、入学時に全員が学生保険に加入したことを確認する必要があるとあり、現在の方法について問題がないか見直す。</p> <p>予防接種については、今後も継続的に対応していく。</p>	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料6-1-B1 学生保険加入者証等の提出について（4年次生）</p> <p>資料6-1-B2 学生保険加入について（加入案内）</p> <p>資料6-1-B3 B型肝炎ワクチン接種について（新入生）</p> <p>資料6-1-B4 2019年度流行性ウイルス感染症抗体検査結果とワクチン接種スケジュール</p> <p>資料6-1-B5 感染症ワクチン接種実施個人あてメッセージ</p> <p>資料6-1-B6 インフルエンザ予防接種実施掲示</p> <p>資料6-1-B7 インフルエンザワクチン未接種者あてメッセージ</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が経験すべき患者数と疾患分類を定義し、バランスを考慮して十分に確保すべきである。</li> <li>・ 臨床実習を充実させるために学外実習施設の拡充と、その指導者の能力開発を行うべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>学生が経験した症候別の患者数を把握できるよう e-ポートフォリオ (Mahara) の改修を開始した。</p> <p>臨床実習後半 (ACC) において診療参加型実習を進めるため、総合診療などにおいて学外での実習を拡充する計画を立てた【資料 6-2-B1】。</p> <p>山梨県開業医会において医学教育の現況と課題に関する教育講演を行い、学生教育への協力を依頼した【資料 6-2-B2】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>学生が臨床実習中に経験すべき患者数、疾患分類について臨床実習センター運営委員会において検討を行い、そのリストを e-ポートフォリオに収納できるようにする。</p> <p>地域の医療機関と緊密な連携をとり、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら着実に学外実習を実施できるようにする。</p> <p>学外実習先の指導医に本学の教育 FD 研修会の受講を求めるなど、学外での指導体制の強化を図る。</p> <p>本学から県内の医療機関に派遣される臨床教育指導医が学生教育にも参画できるよう検討する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料6-2-B1 臨床実習 (ACC) 学外実習先依頼資料</p> <p>資料6-2-B2 山梨県開業医会講演会資料</p>	

## 改善した項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム開発、指導および評価方法の開発を協働して行うために、学内外の教育専門家の活用をさらに推進すべきである。</li> </ul>	
<b>改善状況</b>	
2020 年度より医学科医学カリキュラム委員会と医学教育カリキュラム評価等実施委員会に全学の大学教育センターから委員を加えることとした。	
<b>今後の計画</b>	
学外の専門家による教育 FD 研修会を増やすよう医学部キャンパス教育 FD 委員会などで検討する。	
医学教育の質の向上のために、近隣の大学の医学教育部門と定期的に交流するシステムを構築することを検討する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料2-7-Q1 2020年度医学科医学カリキュラム委員会名簿、2020年度医学教育カリキュラム評価等実施委員会名簿	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新カリキュラム導入と臨床実習拡充に備えるために、教育FD研修会をさらに活発に開催することが望まれる。</li> <li>・ 教職員が教育的な研究を遂行することが望まれる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>医学部キャンパス教育FD委員会において、改善のための示唆に従って改善する方策についての検討を開始した【資料5-2-B2】。</p> <p>全講座の教授を対象に、学外の医学教育専門家による「医学教育の社会的責任」に関する教育FD研修会を実施した【資料6-5-Q1】。</p> <p>教育的研究を遂行できるよう、医学教育に関わる専任教員を増員することとした。総合診療をテーマとした教育FD研修会を2020年度に実施することとした。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>医学部キャンパス教育FD委員会において、臨床実習拡充につながる教育FD研修会の開催を検討する。医学部附属病院の臨床実習センターにおいても同様なテーマの教育FD研修会を企画する。</p> <p>日本医学教育学会大会等で研究成果を発表できるような教育的研究を行う。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料5-2-B2 2019年度第3回医学部キャンパス教育FD委員会議事要録（審議事項3）。</p> <p>資料6-5-Q1 令和元年度第4回医学部キャンパス教育FD研修会開催案内</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 国内外の交流をさらに活性化することが望まれる。	
現在の状況	
<p>2019年度に、海外の大学との交流協定締結を担当し、海外からの短期留学生の病院実習等の窓口となる部門を医学部附属病院内に設置した。</p> <p>令和元（2019）年度は、中国の五邑大学と包括的な大学間交流協定を締結し、また西安医学院及び暨南大学と交流に関する意向書を取り交わし、学生及び教職員の交流等の促進を図ることとした【資料 6-6-Q1】。</p> <p>マレーシアのスルタンザイナルアビディン大学及びベトナムのホーチミン市医科薬科大学の国際交流担当者と、今後の国際交流事業についての意見交換等を行った【資料 6-6-Q2、6-6-Q3】。</p> <p>平成 28（2016）年度より中国の浙江大学から短期研修生を受け入れているが、2019年度は本学の 6 年次生 1 名が同大で臨床実習を実施した。当該学生とアイオワ大学の医学科生研修プログラムに令和元年度に参加した学生が、海外臨床実習での経験を 5 年次生に報告し、海外臨床実習への関心を高めることを図った【資料 6-6-Q4】。</p>	
今後の計画	
<p>国内外の交流を活性化するため、医学部国際交流委員会に臨床系の委員を増員する【資料 6-6-Q5】。</p> <p>本学で受け入れる外国人短期研修生が臨床実習に参加することで、海外臨床実習に参加しない本学学生にも国際交流の機会を提供できるよう検討を進める。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料6-6-Q1 大学間交流協定書・意向書</p> <p>資料6-6-Q2 スルタンザイナルアビディン大学来訪記事</p> <p>資料6-6-Q3 国際交流促進事業報告書</p> <p>資料6-6-Q4 令和元年度選択実習ガイダンス次第</p> <p>資料6-6-Q5 第47回医学部国際交流委員会議事要録（審議事項5）</p>	

今後改善が見込まれる項目・改善した項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教学IRを活用して、カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設けるべきである。</li> <li>・ カリキュラムとその主な構成要素と学生の進歩を評価し、課題を特定して対応する仕組みを確立すべきである。</li> <li>・ 評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。</li> </ul>	
<p>改善状況</p>	
<p>教学IRの活用について、大学教育センター教学IR部門（医学部）において検討を開始したが、2019年度は具体的な活用までには至らなかった。</p> <p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会が主体となって、医学教育モデル・コア・カリキュラムのB-E項目の講義における実施状況の調査を行った【資料7-1-B1】。また、医学科2年次生を対象に、C項目の修得状況の調査を行った【資料7-1-B2】。</p> <p>入学までの理系科目の履修状況が異なるため、専門教育を行う際に問題となる可能性があることから、2001年版の準備教育モデル・コア・カリキュラムの実施状況調査を行った。物理、化学、生物などの基礎教育科目と基礎医学教育科目との連結状況を確認した【資料7-1-B3】。また、基礎医学科目の準備教育が基礎教育科目で十分にカバーできているかどうか、1年次生の修得状況の調査を行った【資料7-1-B4】。</p> <p>各調査結果に基づいて課題を抽出し、医学科医学カリキュラム委員会へ提言を行った【資料7-1-B5】。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>教学IRの活用のためIR部門の医学部担当委員を増員するとともに、定期的に打ち合わせを行い、医学教育カリキュラム評価等実施委員会と連携する【資料7-1-B6】。</p> <p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会が抽出した課題を医学科医学カリキュラム委員会が検討中の2021年度入学生から適用されるカリキュラムに反映させる。</p> <p>医学教育モデル・コア・カリキュラム実施状況調査は2021年度からのカリキュラムの進行に合わせて実施する。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂にあわせて行う予定である【資料1-3-B4】。</p> <p>医学教育モデル・コア・カリキュラム修得状況の調査を継続して行い、課題を特定してカリキュラムに反映するシステムを構築する。【資料1-3-B4、1-3-B5】。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料7-1-B1 コアカリキュラム実施状況調査（B、C、D、E項目）</p> <p>資料7-1-B2 2年次生コアカリキュラム修得状況調査 C項目</p> <p>資料7-1-B3 準備教育コアカリキュラム実施状況調査（準備教育の必要性）</p> <p>資料7-1-B4 準備コアカリキュラム修得状況調査</p> <p>資料7-1-B5 コアカリキュラム、準備コアカリキュラム調査に基づく提言</p> <p>資料7-1-B6 大学教育センター教学IR部門打合せ（医学部）議事メモ</p> <p>資料1-3-B4 2019年度第5回医学教育カリキュラム評価等実施委員会議事要録（審議事項5、6）</p>	



資料1-3-B5 医学教育分野別評価改善項目に関わる業務の分担について（7. プロ  
グラム評価④～⑥）

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長時間で獲得される学修成果、社会的責任について定期的に、プログラムを包括的に評価することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会において、「カリキュラムの特定の構成要素」に対する評価として、現行カリキュラムがディプロマポリシーに適合しているかの検討を開始した。その結果、一部に不適合が認められたので、医学科医学カリキュラム委員会に提言を行った【資料 7-1-Q1】。</p>	
今後の計画	
<p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会において、現行カリキュラムがディプロマポリシーに適合しているかの検討をさらに進める。</p> <p>本学の医学教育が社会的責務を十分にはたしているかについて、県内外の臨床研修指定病院の代表者が参加する医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会において討議する。更に医学部独自のステークホルダー・ミーティングの開催を検討する【資料 1-1-B2】。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料7-1-Q1 医学科の学位授与方針に基づくカリキュラムの評価と提言          資料1-1-B2 第235回医学部教授会議事要録（その他：医学部ステークホルダー・ミーティング開催）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育プログラムの過程や学修成果などに関する情報を系統的に求め、分析し、対応すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>各講義において「学生による授業アンケート」が実施されているが、その集計結果は医学部長と担当教員のみには伝達されている【資料 7-2-B1】。これを医学教育カリキュラム評価等実施委員会において分析、対応できるようシステムを変更することとした【資料 1-3-B4、1-3-B5】。</p> <p>臨床実習開始前の 4 年次生を対象に臨床医学教育に関するワークショップを開催し医学教育担当教員と意見交換した【資料 3-1-B1】。</p> <p>アクティブラーニングに関しては、大学教育センターが教員アンケートを実施し、多様な教育方法が実践できる学修環境などを検討している【資料 7-2-B2】。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>新たなシステムにより教育プログラムの過程や学修成果などについて、医学教育カリキュラム評価等実施委員会で情報を収集・蓄積し、継続的に分析、対応していく。また対象を講義のみならず実習にまで拡大していく。</p> <p>大学教育センターの教員アンケートを活用するとともに、医学部独自の教員アンケートを実施して、プログラムの改善に役立てられるよう検討する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料7-2-B1 学生による授業アンケート（授業の振り返りシート）</p> <p>資料1-3-B4 2019年度第5回医学教育カリキュラム評価等実施委員会議事要録（審議事項5）</p> <p>資料1-3-B5 医学教育分野別評価改善項目に関わる業務の分担について（7. プログラム評価⑦）</p> <p>資料3-1-B1 BCGガイダンス日程・ワークショップ資料</p> <p>資料7-2-B2 アクティブラーニングに関する教員アンケート</p>	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生だけでなく教員からのフィードバックの結果を活用して、プログラムを開発することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>医学科医学カリキュラム委員会と医学教育カリキュラム評価等実施委員会の共同開催により、医学科基礎科目と基礎医学系科目の連携に関する意見交換会を行った【資料 7-2-Q2】。</p>	
今後の計画	
<p>学生及び教員からの意見を現行のカリキュラムにおける臨床実習や医学科医学カリキュラム委員会が作成する 2021 年度入学生から適用されるカリキュラムに反映させていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料7-2-Q2 医学科基礎教育科目と基礎医学系科目の連携に関する意見交換会開催通知</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
<p>卒業時のアンケートを改良し、ディプロマポリシーに沿った学修成果の獲得状況について評価できるようにした。ただし、2020年3月においては新型コロナウイルス感染症により卒業式が開催されなかったため、対象を本学医学部附属病院に研修医として勤務する者に限定することとした【資料7-3-B1】。</p> <p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会で改善のための対応を検討した結果、臨床研修センターに協力を依頼し医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会においてアンケート調査を実施することとした【資料1-3-B4、1-3-B5】。ただし、2020年3月の委員会は中止となった。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>上記の卒業生や医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会に参加する臨床研修指定病院へのアンケートを継続する。</p> <p>医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会や本学の関連病院から卒業生に関する情報を得て、カリキュラム等へのフィードバックできるよう検討する。</p> <p>山梨医科大学／山梨大学医学部同窓会や開催を検討している医学部のステークホルダー・ミーティングからも卒業生の実績に関する情報を収集していく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料7-3-B1 卒業生に向けてのアンケート・集計結果</p> <p>資料1-3-B4 2019年度第5回医学教育カリキュラム評価等実施委員会議事要録（審議事項5）</p> <p>資料1-3-B5 医学教育分野別評価改善項目に関わる業務の分担について（7. プログラム評価⑧⑨）</p>	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生と卒業生の実績を分析し、その結果をそれぞれ責任のある委員会へフィードバックすることが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会で在学生及び新卒業生にアンケート等を行い、本学のカリキュラムと実績等の分析を行っている。その結果は医学科医学カリキュラム委員会に提言という形でフィードバックしている。</p> <p>卒業生の実績についてのアンケートは実施できておらず、臨床実習センターと臨床研修センターが実施方法について検討することとなった【資料 1-3-B4、1-3-B5】。</p>	
今後の計画	
<p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会、臨床実習センター、臨床研修センターが協力して継続的に学生と卒業生の実績に関する情報を集め分析する。その結果を医学部教育委員会、医学科医学カリキュラム委員会、臨床実習検討委員会、入学者選抜方法検討委員会などにフィードバックしていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料1-3-B4 2019年度第5回医学教育カリキュラム評価等実施委員会議事要録（審議事項5）</p> <p>資料1-3-B5 医学教育分野別評価改善項目に関わる業務の分担について（7. プログラム評価⑧⑨）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者など、他の関連する教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>卒後臨床研修プログラムにおいて他職種評価を実施しているが、カリキュラムへのフィードバックは行われていない。</p> <p>全学において、教育の内部質保証に向けた取組み及び情報・数理教育科目に関するステークホルダー・ミーティングを計画したが中止となった【7-4-Q1、7-4-Q2】。</p>	
今後の計画	
<p>卒後臨床研修において行われている他職種評価を臨床研修センターを通じて、臨床実習センターにフィードバックし、臨床実習の改良に役立てる。</p> <p>医学部ステークホルダー・ミーティングの開催を検討し、社会の様々な立場の方から本学卒業生の実績やカリキュラムについての意見を聴取し、今後のカリキュラムの改良に活用する【資料1-1-B2】。</p> <p>診療参加型実習、臨床研修において360°評価をさらに行い、他職種の視点での評価を重視し、カリキュラムの改良に繋げていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料7-4-Q1 令和元年度ステークホルダー・ミーティング開催要項</p> <p>資料7-4-Q2 令和元年度（第4回）ステークホルダー・ミーティング次第</p> <p>資料1-1-B2 第235回医学部教授会議事要録（その他：医学部ステークホルダー・ミーティング開催）</p>	

今後改善が見込まれる項目

8. 統括および管理運営	8.2 教学のリーダーシップ
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学部の使命と学修成果に照合して行うリーダーシップの評価を構築することが望まれる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>医学部長の当該年度の活動報告及び次年度の活動計画については医学部教授会において年1回審議されており、医学部長のリーダーシップについての評価が実施されている【資料8-2-Q1、8-2-Q2】。ただし、医学部の使命という視点でのリーダーシップの評価は十分とは言えない。</p>	
今後の計画	
<p>医学部独自のステークホルダー・ミーティング等において、医学部の使命と学修成果という視点から教学のリーダーシップについて討議する場を設ける予定である。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料8-2-Q1 第227回医学部教授会議事録（審議事項8）          資料8-2-Q2 医学部長の平成30年度取組結果及び平成31年度計画（第227回医学部教授会資料）</p>	



## 今後改善が見込まれる項目

<p>9. 継続的改良</p>	
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育（プログラム）の過程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、詳細ならびに学修環境の評価方法を確立し、自己点検評価結果に基づいた教育改善を確実に実施すべきである。</li> <li>・ 自己点検評価報告書における「C. 現状への対応」と「D. 改善に向けた計画」を再考して具体的な計画を立案し、継続的改良に結び付けるべきである。</li> </ul>	
<p>現在の状況</p>	
<p>医学教育カリキュラム評価等実施委員会において在學生、新卒業生、教員にアンケート調査を行い、ディプロマポリシーの達成度などについて分析し、医学科医学カリキュラム委員会に提言としてフィードバックしている【資料7-1-Q1】。ただし、社会からの本学の卒業生の実績等については情報収集されておらず、医学教育の改善に活用されていない。そのため、上記のアンケートの継続的实施を行うとともに、医学部附属病院医師卒後臨床研修管理委員会や山梨医科大学／山梨大学医学部同窓会との連携、医学部ステークホルダー・ミーティングの開催を検討している【資料1-1-B2】。</p> <p>医学教育分野別評価における指摘事項を医学部内の教育に関わる各委員会に周知し、担当領域の継続的改良に役立てることとした。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>アンケート等で得られた情報を医学教育カリキュラム評価等実施委員会で分析し、医学部教授会、医学部教育委員会、医学科医学カリキュラム委員会、臨床実習検討委員会、入学者選抜方法検討委員会などにフィードバックし、医学教育改革に継続的に取り組む予定である【資料8-2-Q1、8-2-Q2】。</p>	
<p>現在の状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料7-1-Q1 医学科の学位授与方針に基づくカリキュラムの評価と提言          資料1-1-B2 第235回医学部教授会議事要録（その他：医学部ステークホルダー・ミーティング開催）          資料8-2-Q1 第227回医学部教授会議事録（審議事項8）          資料8-2-Q2 医学部長の平成30年度取組結果及び平成31年度計画（第227回医学部教授会資料）</p>	